

病院のお仕事いろいろ

罹患しても
その人らしく
生き生きとした人生を



看護部東病棟6階
乳がん看護認定看護師
副看護師長

山口 美代子
(やまぐち みよこ)

乳がんは、現在、女性の臓器別がん罹患率第1位であり、30歳代から増加し始め、40歳後半から50歳代と仕事や家庭等多様な役割を担っている世代にピークを迎え、今後もその数は増加すると予想されています。また、乳がんは他のがんに比べて治療期間が長く、診断から10年以上、長期にわたって経過を見ていくため、再発や転移の不安が続くことも特徴的です。

乳がん看護認定看護師は、心理面のサポート、治療方法選択時の意思決定支援、抗がん剤や放射線治療の際出現することの多い、脱毛や皮膚障害など副作用に対するセルフケア支援、チーム医療の推進など多くの役割を担っています。

乳がんと診断された患者さんは、がんという病名を受け止めきれない状況の中、短期間で人生における重要な、いくつかの選択をしなければなりません。治療に関する意思決定は、非常に難しいことです。

現在、手術前の患者さんを中心に個別面談

させていただき、患者さんやご家族の気持ちの整理をお手伝いし、できる限りご希望に沿った納得のいく、手術方法や乳房再建方法が選択できるようサポートさせて頂いています。その際、患者さん自身の希望や意向を引き出せるようじっくり話をお聞きするよう心がけています。また、手術や治療により変化した外見を整える方法、子どもさんへの告知の仕方、遺伝の問題、家庭や仕事の問題などの相談も行っております。

乳がんの治療過程では、迷いや不安を一人で抱え、塞ぎ込んでしまう患者さんが多くいらっしゃることを知り、悩みを一緒に考え、伴走者として共に歩めるような看護師になりたい、そのためには専門的な知識の習得が必要であると考え、平成30年に乳がん看護認定看護師の資格を取得した山口さん。「乳がんに罹患しても、その後の人生をその人らしく生き生き過ごしていただきたいと願っており、全力でサポートしたいと思っています。」と話してくれました。



治療を実施しています

現在、開発中の医薬品の候補（治験薬）あるいは医療機器を用いた治験を、以下の病気を対象に実施しています。参加いただいた患者さんにおけるデータを集め、有効性や安全性を確認して医薬品や医療機器としての「承認」を得ることが治験の目的ですが、参加いただいた患者さんにとって良い効果をもたらす場合もあります。まずは、よく情報を得ていただきたいと思っておりますので、**お気軽にお問い合わせください。**

- 尿路上皮癌
- 多発性骨髄腫
- クローン病
- 大うつ病
- 肝細胞癌
- 肺癌
- 筋萎縮性側索硬化症
- 心臓リハビリテーションの適応となる心疾患
- 筋層浸潤性膀胱癌
- 掌蹠膿疱症
- 急性骨髄性白血病（移植適応外）
- 前立腺癌（mCRPC）
- 慢性動脈閉塞症
- 滲出型加齢黄斑変性
- 腎細胞癌
- 肝硬変
- 潰瘍性大腸炎
- 糖尿病黄斑浮腫

ご協力をお願いします。



ちけん君は
日本医師会治験
促進センターの
キャラクターです。

問合せ：総合臨床研究センター
tel.088-633-9294